

26. 地域医療教育部会^{*1}

安井 浩樹^{*2}（部会長・松阪市民病院）

第21期より日本医学教育学会委員会組織の大幅な改変がなされ、医学教育に興味を持ち、医学教育活動を楽しむ場としての部会が設置、その一つとして地域医療教育部会が立ち上げられた。

超高齢社会、へき地医療、地域包括ケア、地域枠制度、臨床研修制度（必修分野としての地域医療）等、様々な場面で地域医療教育の話題が取り上げられている。しかしながら、それぞれの課題がすでに狭義の医学教育の枠組をこえた、政治、経済、社会、文化、歴史等の様々な問題に根ざしており、それらを地域医療教育の課題として扱い解決の足がかりとするには、基軸となるスタンス（立場、考え方）が必要と考え、今期メンバーでは地域医療教育における、哲学を含みリベラルアーツの重要性について考えることとした。

メンバーは北海道から沖縄まで、卒前、卒後教育に加えて、地域医療の第一線で従事するもの、また、哲学カフェ等を主催するもの、地域社会活動を行っているものなど、医学教育にとどまらない活動を行っている9名のメンバーで活動を開始した。

2021年の大会では、「リベラルアーツ学修の

場としての地域医療」と題したシンポジウムを企画（オンデマンド）、卒前、卒後のリベラルアーツ教育に加えて、哲学の枠組からみた地域医療教育の課題について、実際に配信された時間以上の密度の濃いディスカッションと同時に問題提起を行った。

奇しくもアート、リベラルアーツに関する多くの演題、シンポジウムが立ち上げられた学会となり、地域医療、医学教育、そして地域医療教育における、アートやリベラルアーツ教育の重要性を再認識することとなった。新型コロナウイルス感染症の影響で、執筆時点では、メンバー直接対面での会合はかなっていない。

今後の課題として、21期、22期中に、地域医療教育におけるリベラルアーツ学修の実践企画と、あわせて現状調査を計画している。地域医療を含む医療界が、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの混乱の中にありながらも、未来の地域医療や医療人を考え、示していくのも日本医学教育学会の役割の一つと考える。

部会員：田中淳一、尾原晴雄、孫大輔、谷口純一、山本さゆり、杉村政樹、小比賀美香子、担当理事：安井浩樹

^{*1} Community Medicine Education Subcommittee

^{*2} Hiroki Yasui